
北陸地域国際物流戦略チーム 令和5年度 第2回 広域バックアップ専門部会

日 時：令和6年2月20日(火)15:00~17:00

場 所：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 201 中会議室

方 式：対面・オンライン会議 (Microsoft Teams) 併用形式

出席者：別紙、名簿のとおり 30 名(会場 12 名、WEB 18 名)

－ 議事概要 －

(挨拶)

【座長】

- ・年度末、能登半島地震発生後の支援と対応等で忙しい中、皆様参加いただきありがたい。
- ・1月1日に能登半島地震が起き、尊い命がたくさん失われてしまった。お悔やみ申し上げる。また、現地で家を失った方や日々の生活の糧を得るために頑張っている方、そして企業の皆様、1日でも早く立ち直り、元に戻っていただくことを祈念している。北陸地方整備局、北陸信越運輸局の方々も日々支援に入っており、ご苦労されていると思うが、引き続き現地再生のために頑張っていただければと思う。
- ・今回大きな地震を経験してわかったことは、やはり自然の恐ろしさである。私どもが勉強していると大体、自然の抑え方は気候と気象、水文水理、そして地形と地質について分布の状況などの影響のし合い方でまったく違う様相となる。今回の地震は以前経験した東日本大震災とはかなり様相が異なっている。家屋の倒壊が全然違い、そして道路も寸断されており、支援すらもなかなか寄り付けないような厳しい状況が依然として続いている。そしてまだ地震活動も活発だということで、人間が本当に小さい存在であることを改めて思い知らされている。
- ・しかし、それをただ見つめているわけにはいかないため、様々な対策を打っていかねばならない。本日の会議もこういった災害に対して、こういった形で知恵を発揮するのが求められていると思う。このリアリティと想像力をわきまえながら次の次の打ち手だけではなく、また違う角度からもう一度考え直し、さらにブラッシュアップしていただければと思っている。本日はそういった会議にしたいと思う。

議事①：今年度の代替輸送ワークショップ・訓練の結果概要

議事②：今年度の代替輸送ワークショップ・訓練の考察

議事③：考察を踏まえた今後の対応

後のご意見

【座長】

- ・訓練の状況を見る限り、やはり社長の決裁やその場での判断の仕方で戸惑っているということで、次年度以降あるいは実際の発災時に現場の判断をどのように担保していくのか、この議論はきちっとやっておく必要があると思う。おそらく、シンプルなシグナルや兆候で判断ができる体制や1回発災したら現場がトップになるような組織体制を構築していくなどの工夫を企業、業態によって一度詰めておく必要があると思う。
- ・北陸港湾の必要性については、陸路で安全性確保も1つあるが、2024年問題に対し法律の壁を突破することに加え北陸港湾が利用されるようにする議論も必要になってくると思う。

議事④：内航フェリー・RORO 船を活用した施設検討

後のご意見

【委員】

- ・先の能登半島地震によって、新潟以外の北陸港湾の被害がどのくらい出ているかよく把握していないが、この状態で仮に南海トラフ地震や首都直下型地震が発生した場合に代替輸送できるのかの想定も行う必要がある。現状、北陸港湾の被害状況、回復の見込み、発災した場合にすぐ利用できるかについてお聞きしたい。

【事務局】

- ・新潟県内では佐渡の港は少し液状化の被害を受けている。震源に近い南側の直江津港も液状化の被害が出ている。荷役スペースが液状化して、ひび割れが出ている状況である。
- ・石川県内では能登半島の先端は被害がひどく、南側の金沢港も被害を受けている。また、岸壁が整備された時期、古さ、その構造形式によって被害がかわる。耐震強化岸壁とって、地震に耐えうように設計したものは、比較的機能している。耐震強化岸壁でない岸壁でも新しい時期にしっかりした構造で作られているものについては、多少傾いたり、背後にひび割れが起きたりしても、緊急に砂利を引いて鉄板などを置けば使えることが分かっている。被災地の方には申し訳ないが、我々もまだこの地震を受けて、港湾の在り方を分析中、勉強中である。大きな地震がきてもある程度すぐに使える岸壁やその背後の荷さばき地を整備していく必要があると思う。
- ・新潟にも耐震強化岸壁が整備されており、一定レベルの地震が来ても使えると思う。ただし、古い岸壁もあるため、将来地震が来た時にもそれらを使うように備える点は課題である。

【委員】

- ・耐震化されているかどうかについても資料に整理されているとよい。

【委員】

- ・金沢港のコンテナの荷役は、皆様に点検していただいた結果、1月6日から再開できた。七尾港についても荷役する分には支障がない状況である。震災の被害は耐震強化岸壁等では荷役に支障が無く、無事再開できている。ただ、耐震強化岸壁以外の在来船が寄港する岸壁で一部使用できない部分もある。速やかに点検をしていただいたことが良かったと思うので、そういった点検体制の構築については今後活かせると思う。

【座長】

- ・東日本大震災の時も港が地盤沈下を起こしていたが、しばらくたったら元に戻ったということがあった。そういったこともあるので、自然地形との関係も今後、研究を進めていく必要がある。

議事⑤：来年度のスケジュール 後のご意見

※特段、意見・質問などなし

議事⑥：国内輸送に関する事例紹介

・株式会社ブルボンの物流効率化の取り組み 後のご意見、意見交換・質疑応答

【委員】

- ・大変参考になった。県内6社で共同配送の取組みのほかに、他県でもこういった取組み事例はあるか。

【委員】

- ・卸業者だと、北海道や九州で卸業者の物流改善委員会での活動が始まっている。これを名古屋地区でも広められたらと思っている。名古屋地区は中小のお菓子メーカーがたくさんあり、共同でやるといってもなかなか音頭がとれないので、抱き合わせしてもっていく形で広められたらと思っている。まずは新潟がモデルになるように6社集まって共同配送を行っているところである。

【委員】

- ・貴重な取組を教えていただいてありがたい。我々も物流業者であり、メーカーにこのような物流業者に対して寄り添った取組みを行っていただき、非常にありがたく思っている。
- ・BCPには国内輸送に関する記載がないと言われていたが、過去の東日本大震災の時に経験したのが、貨物は代替港になった新潟港に集まったが、その集まった貨物を被災地まで運ばなければならず、国内の輸送力の確保が非常に大変だった。これをいかに対応していくかが改めて大事だと感じた。
- ・私どもが考えているのは、例えばコンテナであれば、持っていったものを空で持って帰ってくるのではなく、帰り荷を詰めて持ってくることやインランドデポの活用である。こういった取組みを今行っているところであり、改めてそれらの大切さを実感した。

【委員】

- ・今年度の代替輸送訓練の結果を報告いただきありがたい。その評価のところ、検証結果として訓練参加の継続が大事だと出たといことは、とても納得がいった。そして、とても素晴らしい訓練が続けられていると思う。
- ・課題のところでおっしゃっていたが、参加者数をこれから増やしていきたいという話があったが、何か目標値的なものがあればお教えいただきたい。

【事務局】

- ・最近では50名程度で1つの訓練を行っている。さらにそのうち半分くらいが傍聴で、実際の訓練参加者数は25名程度である。参加される方全員を訓練やワークショップに直接参加いただければ50名程度が訓練に参加できる。企業として継続的に参加しているところも多いようなので、当面はこの50名程度で実際に参加してくれる人を継続して増やしていくことが目標になるのではと考えている。

【委員】

- ・訓練に参加されている方がとても先進的な取組みを先行者として行っていることを、報告を聞いて理解できたところである。それが社会全体の広がりの中で、ごくごく小さな点でしかない状態なのか確認したい。おそらく小さな点であると思うが、どれだけ広げていくか見通しがあれば聞きたくて質問した。

【委員】

- ・バックアップの岸壁諸元の整理について、今回も地震があった後に国土交通省経由で七尾港や金沢港などに入れないかと問い合わせがあった。弊社は寄港していない岸壁だったので、自分たちで港湾のデータをいろいろ取り寄せて、船が入れるか確認した。先ほど説明していただいたように港の施設の岸壁高さやビット間隔、車止めの高さ、防舷材の厚さなどがすぐわかるような資料があれば、今後なにかあった時にすぐ岸壁につけるか判断できと思うので、この資料を細かく整理いただければと思う。

【委員】

- ・共同配送の取組みはすごく頑張っておられると思った。こういった取組みが北陸3県にも広がればよいと思っている。共同配送では、いろいろなご苦労があって、負担されているコストも結構多いかと思う。そのハードルを下げるためにも、何か行政から支援があれば取組みが進むのではと思う。行政の方でこういった取組みを支援、後押しするような補助金などあるか、今後支援していく考えがあるか教えていただきたい。

【事務局】

- ・物流の効率化ということで、今国会の方でも提出して、倉庫の特定流通業務施設を作ると補助金や税制の優遇が受けられるようになる。今回、ご紹介いただいた取り組みの共同輸送には補助金等はないため、本省にそのような意見があったことを報告させていただきたい。

【委員】

- ・大変参考になった。商工会議所連合会は連絡調整機関であるので、こういった事例についてもいろいろなところで発信させいただきたい。

【委員】

- ・いよいよこの4月からトラックドライバーの時間外労働の上限が罰則付きで規制されるいわゆる2024年問題が始まる。このような中、パレットでの物流効率化は我々トラック運送業界にとっては非常にありがたい取組みである。今後、輸送力の減少が見込まれる中、是非、広く様々な業界においても取り入れていただければ物流効率化につながっていくのではないかと考えている。

【委員】

- ・非常に有用な訓練をしていただいているので、来年度の訓練参加者の募集についてトラック協会にも参加要請していただければと思う。
- ・取組みは非常に良いと思う。取組みの中でバラ積みからパレット積みにする際の目標として1割減を目指していると話があったが、今の段階でバラ積みとパレット積みで積載量としてはどれくらいか。

【委員】

- ・現在、バラ積みでは90%以上積めるが、パレット積みの2段でやると大体70%ぐらいとなる。そうすると現行の3割弱減になる。そのため、製品の段ボールのモジュール化を行い、1パレットあたりの積載量をあげる活動をしている最中である。

【委員】

- ・取引関係のあるトラック運送業者と共同で取り組んだ結果であり、大変参考になった。持続可能な物流のため、今後も会員事業者と積極的に取組みを推進していきたいと思う。

【委員】

- ・この訓練については、非常に先進的な取組みだと思うので、是非、継続して頂ければと思う。また、情報発信も広く実施して頂ければと思う。一点アンケートで気になったのが、北陸港湾の利用を不要と思っている方が多くいるという点であり、それがなぜかという原因がわかるようになると非常にありがたい。おそらく、費用対効果の観点が主因の一つと推察している。防災・BCMは、短期的視点ではコストが気になるかもしれないが、長期的に見ると大きなメリットがある。ブルボンの取組みも同様で、短期的視点では積載効率がバラ積みと比べると低いかもしれないが、長期的・多面的な視点では大きな効果がある取組みと理解した。このような長期的視点での費用対効果はなかなか示しづらいが、いかに多くの方に理解いただけるかが、防災・BCMが普及していくポイントになると思われる。
- ・もう1点、最近、サプライチェーンにおけるリスクマネジメントへの意識がかなり高まっている。一方で、「サプライチェーン」という文言から、対象は製造業であり、非製造業はサプライチェーンを持たないため関係が無いと思われる方も少なからずいらっしゃる。非製造業であっても、事業の上では社外関係者・パートナーはいるはずであり、そのような関係者と連携した事業継続対策や、場合によっては地域を面的に巻き込んだ取組みも必要であると感じている。

【委員】

- ・まずは、新潟菓子メーカー6社の取組みは非常に素晴らしいと思う。関東方面だけ行っているようだが、課題をクリアして各方面でやっていただけたら、トラック協会の方々が心強く思うので、是非、頑張ってください。
- ・バックアップ専門部会では、できればいろいろな企業の取組紹介があった方が参考になると思うので、事務局にお願いしたい。

【委員】

- ・被災状況について問い合わせがあったが、港運事業者の認識としては、金沢港は一部岸壁被災、背後地も被災しており、岸壁が2箇所ほど使えず、在来船の接岸もできない状況になっている。今まではバックアップの話ができたが、能登半島地震以降、我々の通常業務に戻るまでに、会社の中でどのように組み立てていくか検討しているところなので、バックアップ体制という認識では動けないような状況である。

【委員】

- ・手引書を改訂され、実際のデータや輸送事例を記載いただいた結果、わかりやすく、イメージしやすくなっていると思う。輸送事例の中で、九州で船社の協力により物流ルートを確保した事例がある。内航フェリー・RORO船を活用した代替輸送ということだが、船はコンテナ船である。コンテナ船も代替輸送に使えた方が、選択肢が広がってよいと思うので、港湾施設の諸元の資料にクレーンの数なども整理できるとよい。

【委員】

- ・座長が話したように、現場への権限移譲をできない会社が結構ある。BCPを作ることが目的となって、BCPの基本方針が理解されていない。BCPには事業継続戦略を持つということが記載される。戦略とは何かあった場合の代替生産と代替輸送のことである。それをもって供給責任をしっかりと果たしていく必要がある。それにはコストと時間がかかることを理解されているはずだが、実際の訓練をやると、社長の決裁が必要だからとできない場合が多い。是非、そこは訓練を通じて、かつ、その宣伝もしながら、供給責任を果たすためには代替戦略が必要であることへの理解を深めてもらう必要がある。

- ・多くのメーカーはグループ会社の物流会社を持っている。本体のBCPを優先する関係で、グループの物流BCPはあまり進んでいない。プライベート岸壁、船、トラックなど持っている状況で、被災するとプライベート岸壁が使えなくなるなどを理解していない。訓練にメーカーのグループ会社に参加してもらいそういった点を気付かせることも考えられる。
- ・今回の能登半島地震の時もガントリークレーンをしっかり点検されて1月6日からしっかりコンテナの受入をできるようになった。ガントリークレーンは火災保険ではなく動産総合保険になっている。脱輪や操作失敗など地震以外は全て補償できるので是非加入いただきたい。また、岸壁や棧橋などは土木構造物保険があるので保険をかけることができる。民鉄などでは線路などにかけており、補修の際に利用している。うまくリスクと巨額に出ていくお金を平準化する仕組みとして利用するのも一考かと思う。

【委員】

- ・訓練を広めるという意味で、名前を明確に打ち出す必要があると思う。北陸から物流BCPと打ち出していくとよい。今回の取組み事例などを物流BCPと位置付け、先進事例と共に打ち出すと学ぼうという姿勢になる。
- ・今回の資料で岸壁諸元の整理を訓練に組み込めないか。今まで荷主がどう切り替えるかばかりやってきたが、船社側で長期間岸壁が使えなくなるので北陸側に切り替えるといったことを事前検討しておけば、そういった船社に頼んだ方が被災時に北陸の港湾を利用しやすいと認識されるかもしれない。岸壁諸元の整理を利用する方向性まで訓練の中に取り込むことも1つの方法であると感じた。
- ・指示書には、いつも行き帰りの貨物を一緒に検討すると効率がよいことを示しているが、ここで悩まれる方が非常に多い。訓練の中ではモデルとしてそれらの対応も組み込むことを来年度の訓練で提案したい。

【座長】

- ・全体的にいろいろな意見を頂戴した。人間の考え方はいくつかパターンがあるが、その1つとして、次の打ち手をどう考えるかがあり、それは大体の方は想像がつく。しかし、BCPが目指すのは、その次の次をどう考えるか、そして今をどうしていくのか、まったく違う角度からもう一度BCPを見つめ直すといったことが重要である。
- ・事例紹介であった取組みは、新しい意味での企業内コミュニティであり、これを北陸から発信していき、BCPに落とし込んでいくというような1つのツールを手に入れた感覚である。
- ・他の方のご意見も非常に参考になった。是非、来年度に向けて実践に消化して頂ければと思う。

(挨拶)

以上